

321 ROC ANALYSIS OF TUMOR MARKER COMBINATION FOR DIAGNOSIS OF VARIOUS UGI CANCERS

Hee Seung Bom, Ji Yeul Kim, Kwang Sook Park, Chong Mann Yoon. Chonnam University Hospital, Kwangju, Korea

Serum levels of AFP, CEA, FERRITIN, CA19-9, TPA, and elastase were examined by the radioimmunoassay in 65 patients of upper GI cancers (stomach ca 19, hepatocellular ca 23, cholangiocarcinoma 11, pancreatic ca 12). Corresponding benign disease patients (n=38) and normal controls (n=8) were also examined. Various combinations of tumor markers were compared for the diagnosis of UGI cancers by the method of receiver operating characteristic (ROC). Any increase in the number of constituent above two to three was of little benefit in identifying the UGI malignancies.

322 I R M A 法による血中サイログロブリン濃度測定の基礎的並びに臨床的検討

笠木寛治、竹内 亮、日高昭斉、御前 隆、小西淳二
(京都大学核医学科)

血中サイログロブリン(Tg)濃度測定は分化型甲状腺癌の術後の経過観察、バセドウ病における抗甲状腺剤治療中止後の予後判定に有用である。今回私達は栄研社の開発した I R M A 法測定用キットを使用する機会を得たので、その成績を報告する。本法では、測定系に既知濃度の Tg を含む血清を加え、添加回収試験を行い、その回収率で測定値を補正することにより、自己抗体陽性の検体においても測定が可能である。抗体陽性の検体を用い、希釈試験を行った成績は良好であった。維持量の抗甲状腺剤治療で 1 年以上 euthyroid を保っているバセドウ病患者者において、 T_3 抑制試験の成績と血中 Tg 値との間には、抗体陽性例を含め、良好な相関関係がみられた。

323 TSH レセプターアッセイ法の基礎的検討

— 非特異的結合能の問題点について —

浜津尚就、増田一孝(滋賀医大放射線部)、鈴木輝康、山本逸雄、森田陸司(同 放射線科)、越智幸男(同 中検)

TSH レセプターアッセイキットではレセプター (R) と正常人血清に標識 TSH 保存後の PEG 沈殿放射能とルプロールと血清に標識 TSH 添加後の PEG 沈殿放射能 (NSB (L)) との差を特異的 TSH 結合率として算出している。しかし、ルプロールの代わりに (R) を用いた NSB (R) では、NSB (L) よりも数% 結合率が上昇するので、特異的 TSH 結合率が数% 低下した。また、TSH 多量による標識 TSH の (R) への結合抑制率も数% 上昇した。本法で TRAb 値を算出すると、従来法に比して数% の測定値の上昇を認めたので、本法での TRAb 測定値を報告する。